

2025年3月24日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
(TEL： 078-302-7075)

docirbrutinib (AS-1763) の臨床試験がCLL Society (米国) で紹介されました

慢性リンパ性白血病・小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL) に関する支援団体であるCLL Societyのウェブサイトに於いて、当社が実施中の docirbrutinib (AS-1763) の臨床試験が紹介されたのでお知らせいたします。

本紹介記事では、docirbrutinibの臨床試験の概要及び初期結果が紹介されており、さらに本臨床試験の治験主導医師であるテキサス大学MDアンダーソンがんセンター 白血病科教授 Nitin Jain医師のインタビュー動画も併せて掲載されています。

これにより、患者様に docirbrutinib の安全性や効果などの特徴を知っていただく機会が広がることから、当該臨床試験へのエントリーがさらに促進されることを期待しています。

本紹介記事URL

<https://cllsociety.org/2025/03/phase-1-study-of-noncovalent-btk-inhibitor-docirbrutinib/>

以上

CLL Society (米国)

慢性リンパ性白血病・小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL) に関する世界的に認められた支援団体

<https://cllsociety.org/>

BTK阻害剤 docirbrutinib (AS-1763)について

docirbrutinibは、慢性リンパ性白血病 (CLL) を含む成熟B細胞腫瘍 (血液がんの一種) の治療を目的として開発中の、野生型および薬剤耐性変異型BTKの両方を阻害する高選択性で非共有結合型の経口投与可能な化合物です。イブルチニブを代表とする共有結合型BTK阻害薬は、CLLや他の成熟B細胞腫瘍の標準選択薬として使用されています。しかしながら、多くの患者で、BTKの481番目のシステイン残基 (C481) がセリンに置き換わる変異が生じて、共有結合型BTK阻害剤の結合が弱まり、薬剤耐性になる

ことが報告されています。また、ピルトブルチニブを含む開発中の非共有結合型BTK阻害剤に対する新たな耐性変異も報告されています。docirbrutinibは、野生型BTKおよび薬剤耐性変異型BTKのリンパ腫細胞の両方の増殖を強く阻害することから、野生型のみならず薬剤耐性変異型BTKをもつ患者の治療にも有効と考えられ、次世代型BTK阻害剤として開発を進めています。

現在、米国においてフェーズ1b試験を実施しており、2024年10月に用量拡大パートの投与を開始しました。

また、2024年12月開催の第66回アメリカ血液学会年次総会(American Society of Hematology Annual Meeting & Exposition)において、docirbrutinibのフェーズ1b試験初期結果並びに非臨床研究に関する発表が行われました。フェーズ1b試験初期結果の発表においては、docirbrutinibの良好な安全性と薬物動態プロファイル、並びに共有結合型BTK阻害剤やBCL2阻害剤などを含む2ライン以上の治療が行われたCLL患者において高い臨床効果を示したことが報告されました。